

第一回 関東共同土建 安全大会 議事録

日時 2015/5/30 20時より

場所 本社会議室

～社長挨拶～

- ・趣旨説明
- ・一つずつテーマを決めて毎月開催
- ・一人一人が現場の協力業者、新人にも伝え、安全意識を共有していく
- ・ここに参加している人だけではなく、周りへの教育の意識ももってほしい

～部長より開催前の注意事項～

- ・注意事項。倉庫、ゲートの鍵の締め忘れがあるので注意するように
- ・共有車両の社内が非常に汚い。出来るだけ着替えを持参し、作業後は着替えてから乗ってもらいたい

～今回のテーマ～

- ・重機周辺の危険性と安全衛生について

まさに本日、梁から梁に渡る時手を切った作業員がいる。切ったことを報告していない状態で作業を続けた結果、手が少し腫れてしまっている。

なぜ現場の職長に報告しないのか、手当てをしないのか。万一に破傷風にでもなったらどうするのか

小さなことだと自己判断せず、上司に報告するように

▽土工さんが簡単に重機に近づきすぎているように思う。

OP、土工それぞれの立場から意見を述べてもらいたい

▽OP 側意見

- ・重機付近が人の動線になっているケースが多い。
- ・昇降階段をきちんと設置すれば動線が変わるので、きっちり設置すべきではないか
- ・運転席側の左側は乗降空間があるので比較的に見えるが、重機の右側は重機の中からは見えない。なのに何故かそこに必ず土工さんがいる。
- ・重機の旋回範囲にも絶対に入らないようにしてもらいたい
- ・土工さんの忙しさが分かっているだけに自分の中で「まあいいか」という気持ちがないわけではない

- ・ OP の合図、意思表示が大事
- ・ 真後ろに立たれるのが一番怖い。バックしようとした時にはまったく見えない

▽土工側意見

- ・ 合図者に徹底させる。笛などで知らせる必要がある
- ・ 社員だけでも全員笛を持たせるべきではないか。またそれによって、注意喚起を促すのはどうか
- ・ 現場では OP と土工がなあなあになってしまうことが多いので、職長がもっと注意することが必要ではないか
- ・ 現場では自分以外の人を見ているわけだから、お互い気づいた時点で声をかけ、お互いを気にする習慣をつけるのがよい
- ・ 常に意識するしかない
- ・ 自分の身は自分で守る。そして事故は自分のことだけではなく、会社を含め、皆に迷惑がかかるものだ
- ・ たぶん避けてくれるだろうという甘えが自分の中にある

▽議論

- A) 通るときに「おーい」でもいいから声をかけてほしい
- B) 通るときに何度も声をかけると悪い、と遠慮してしまう気持ちもある
- A) 土工さん側からどうしてほしいという意見があれば聞きたい
- B) 土工経験しかないものは、重機の動きが分からない。予測できない
- C) むしろ真ん前を歩いてくれた方がはっきり分かる。
 - A) 手を上げてくれれば必ず分かる
 - D) 何か感じたときは、バケットに石を投げてくれたら気がつく
 - op の意識はバケットに集中している
 - 笛はうるさくて聞こえないこともある
- B) 何が邪魔になるのか分からない土工が多い。一服のときでもいいから職長から op にどこいると、通ると邪魔になるか聞いてもらいたい
 - 土工に伝えるような形でコミュニケーションをとってほしい
 - 土工も積極的に op とのコミュニケーションをとるようにしてほしい

▽もし怪我をしてしまったらどうするかについて

もし怪我をしてしまったら、小さな怪我でもかまわないから職長に報告してほしい
たいした怪我に見えなくても、後から大事になることもある。

「その程度大丈夫」で済ませない

▽総論

- ・ 重機に乗っていると視野は狭い
- ・ 出来るだけ重機のそばを通らない
- ・ お互い声がけし、自分の仕事じゃないからという無責任な態度はやめる
- ・ 安全通路を確保
- ・ 怪我したらすぐに報告
- ・ 重機のそばを通らなければならないようにところに部材をおかない

▽今月の安全目標

合図、声がけによる事故の防止